古典に学ぶ

歴史を通して思考を深めるための必読書

中東・イスラーム地域研究にとどまらず、驚くべき視野の広さで世界を俯瞰する歴史学者・山内昌之氏が語る、ビジネスリーダーがいま読むべき本とは――。

山内昌之
Masayuki Yamauchi
東京大学名誉教授・明治大学特任教授・三菱商事顧問
専門は中東・イスラーム地域研究と国際関係史。近著に『民族と国家』（文春学藝ライブラリー）。

私たちは過去を歴史として学ぶわけですが、歴史は単なる事実の連なりではありません。現実との接点を見つけ、ものごとを考えていくことによって、未来を切り拓いていく手がかりとなるのです。

歴史書を読むならば、歴史小説ではなく古典を読むことをおすすめします。歴史を自分で解釈していくことは、思考を深め、自分の生き方、考え方を充実させてくれるからです。

日本の古典のなかでぜひ読んでいただきたいのが、荻生徂徠（1666～1728）の『政談』です。

徂徠は、徳川五代将軍・綱吉から八代将軍・吉宗まで四代の将軍の治世に関わった儒*学者であり、綱吉の時代には、赤穂浪士に対して切腹論を主張しました。武士の名誉である切腹刑で浪士たちの面目を保ちつつ、幕府の権威を守り、世情の助命論も抑えて、この討ち入り事件の「犯罪性」を希釈して収めようとしたのです。

『政談』は吉宗の諮問に応えて徂徠が書いた、幕府改革の意見書です。当時の江戸は、綱吉の治世のころ（元禄期）から大きく変容しており、幕府財政はひっ迫し、流民による人口の激増と貧困、失業、秩序の乱れといった都市問題が深刻化していました。徂徠は、幕府が直面するそうした問題の根本原因を指摘し、戸籍の厳密化や、礼楽刑政（礼節・音楽・刑罰・政治などの制度）などによって、「経済が正しく治り豊かさがもたらされる」とした改革論を展開しました。

終身雇用の崩壊や派遣社員の増加、福祉の不備、格差の増大といった、現代の社会病理と似通った問題を当時の江戸は抱えていました。『政談』を読み解くことは、徂徠の思想や理論を知るだけでなく、私たちがいま直面する問題について考えを深める作業でもあるのです。

先人の研ぎ澄まされた意識と現代への視座

歴史のなかにある知恵や教訓を知ることで、ビジネスの現場で求められる洞察力や戦略眼が鍛えられることがあります。

『史記列伝』は、中国古典の一つ、司馬遷（紀元前145頃～前86頃）による『史記』の人物伝記の部分にあたります。『史記』全体は、中国古代の伝説上の帝王・黄帝から前漢の武帝の統治までの二千数百年にわたる歴史が記され、約130篇からなります。

そのうちの70篇を占める『史記列伝』には、項羽、劉邦といった武将や大臣、学者から侠客、刺客に至るまで、地位の高低や事の成否を問わず、歴史に深く関わった多様な人物が生き生きと描かれています。

なかでも貨殖（貿易を通じて利益を得る商売）に関わり、巨万の富を得た商人たちを描いた貨殖列伝を読むと、司馬遷が経済や金融についても深い関心を持って書いていたことがわかります。

司馬遷は、民衆の商行為による富の追求を是認し、それに成功する能力を高く評価しました。また、民衆が豊かな生活を送りたいというのであれば、政府は商行為の利便を図るべきであり、それに反対してはいけないと経済の自由化を訴えています。

列伝に登場する人物は、いずれも「人はいかに生きるべきか」という普遍的な考察を行っているところが魅力であり、それぞれが語る教訓や時代を生き抜くための知恵、人間関係の機微や処世術は、現代のビジネスシーンでも十分通用するはずです。

徹底した功利主義と「自助の精神」の追求

3冊目は、アメリカ建国の父の一人、ベンジャミン・フランクリン（1706～1790）が53歳までの半生を綴った『フランクリン自伝』です。

フランクリンは決して恵まれていない職工の家に生まれ、高等教育を受けていませんでしたが、持ち前の勤勉性と倹約性を活かして社会的成功を収めました。その成功は、公共性の精神に照らしたもの、すなわち印刷業で成功を収めたのち、雷が電気であることの証明（避雷針の発明）、独立戦争のための外交、合衆国憲法制定のための調停など多岐にわたるようになります。

彼が成功を収めるまでの道のりは、まさしく〝実学の教科書〟といえるでしょう。実学の基礎にあるのは、「なぜ」という素直な疑問を抱いてものごとに取り組んで利益、効用を追求する姿勢と、他者や国への依存ではない自己努力、自助（セルフヘルプ）の精神です。

明治期の日本人が大量の西洋文明を吸収しつつ自助の精神をもって世の中に幸福をもたらしたように、みずからの努力で事業を成功に導く経営者もその精神の持ち主といえるのではないでしょうか。そうしたリーダーの生き方は、フランクリンのそれと相通じるものがあります。その意味でも、リーダーとしての心得を見つめ直すのに好適な1冊です。

今回紹介した3冊の古典は、人間のなす実学であり、現代でも十分に役立つ内容となっています。リーダーの見識を広げるだけでなく、厳しいビジネス環境を乗り切るための大きな指針を示してくれるはずです。

「20～30年もの時間に耐えうる思想を身につけるには、まず古典を読むことです」と語る山内氏

山内昌之のおすすめ本

『フランクリン自伝』
ベンジャミン・フランクリン／岩波文庫

『史記列伝（1～5）』
司馬遷／岩波文庫

『政談』
荻生徂徠／平凡社

＊儒学：孔子の政治倫理思想を継承発展させた学問。個々人の道徳的修養と徳治主義的政治を尊ぶ。漢代に国教としての儒教が成立し、以後、中国民族の伝統的精神文化の支柱となる。日本には4、5世紀ごろに「論語」が伝来したと伝えられ、日本文化に多大の影響を与えた。